

## グアテマラで虐殺資料館をつくった

Fernando  
フェルナンド・  
Moscoso  
モスコソさん(44)



# ひと

古代マヤ文明にあこがれて考古学を志したはずだった。なのに、20世紀の内戦で虐殺されたマヤ先住民族の人々の遺骨発掘が仕事となった。

「マヤの人たちの役に立ち

たかったのです」

グアテマラでは、96年まで36年間続いた内戦で、軍事政権によって20万人以上が犠牲となり、その8割がマヤ民族だったとされる。実態を掘り起こすNGOの代表として、悲劇を世界に伝える活動を続けてきた。3月、日本の研究者らの招きで来日した。

考古学者として働き始めた90年、マヤ文化が残る同国北部の町で、多くの遺体が無残に投げ込まれた穴を偶然見つけた。「最初は何だか分からなかった。まさか虐殺とは」調べてみると、同様の穴が全土に無数にあった。虐殺の事実を隠すためにつくられた「秘密墓地」だった。

遺骨を鑑定し、遺族に返す活動を重ねた。マヤの人々の多くは読み書きができず、家族らを殺された恐怖で口も閉ざしがちだ。彼らの代わりに写真や証言を記録する資料館づくりを思い立ち、同国東部パンソス村に昨年開設した。

虐殺にかかわったとされる人物の多くはいまだに国会議員や政府の要職にとどまり、影響力を残す。2年前に国立考古学民族学博物館長の職を「突然、解かれた」。暗殺の脅迫も受けるという。「危険でも価値がある仕事。誰かが真相を解明しなくては」

文 田井中雅人

写真 久松 弘樹